

防犯・防災・地域社会の取り組み案

<目指すこと：安心安全なまちづくり>

天王寺区は、上町台地にあり地震での津波の被害が少ないとされているが、一方で、区内に木造密集地や長屋造りの住宅や商店街での地震被害や火災での被害が多いとされ、独居やお年寄りや障害者に対する、避難救助等が必要とされている問題が残っています。

天王寺区内には各地区連合町会には災害救助青年部があり、災害時に活動の中心になることでしょう。地震や天災は避けては通れません、如何に被害を最小限にするか、どの様に予防・準備をするかで減災につながると思われます。

防犯で必要な事は、被害に遭わない様にするか、相談をするかで対策はできます。

お年寄りや障害者の住みよいまちづくり・歩道や道路のバリアフリーを目指すことで天王寺区の向上にもつながると思われます。

<基本的な考え方：命の政策を区政に取り入れる・街頭犯罪の減少・減災>

天王寺区民（高齢者世帯・独居・障害者）災害や火災等が起きた場合助けられる方法。

天王寺区民（高齢者世帯・独居・障害者）把握も見守り等も必要である。

テーマ1：天王寺区内の街頭犯罪

大阪はひったくり全国で1位になるぐらい、ひったくりの多い地域です。ひったくり犯の検挙や被害に遭わない方法を、警察や区の出前講座で広げてみては？

【1】 出前講座の推進（ひったくりや振込詐欺）

（1） メリット

- ・無料で出前講座ができる
- ・ひったくりカバーがもらえる

（2） デメリット

- ・申込みから1か月以上かかる
- ・区か警察にどちらに申込みしたらいいのか分からない。
- ・各連合町会等でする場合は、非町会員は参加しにくい。

【2】 防犯カメラの普及

- （1） 区がネットワークカメラの配備をする。
- （2） 街頭犯罪多発地区(通り)でインターネットの環境がある住民に協力を促す。
- （3） 区役所にネットワークカメラのサーバーを置き、管理をする。
- （4） 警察等の捜査依頼のみに協力する。
- （5） 区が防犯カメラをつけている事を、アピールをし街頭犯罪の抑止につながる。

国道 25 号線沿い付近・細工谷付近・真田山付近のひったくりが多い

テーマ2：防災の意識の向上で減災につなげる

天王寺区内で木造密集地や高齢者・独居・障害者の対策について

【1】 防災・火災訓練の出前講座を増やす

- (1) 防災訓練をする為には、どの手順が必要かマニュアル化が必要
- (2) 防災・火災で何を学ぶか？必要であれば、人命救助・消火訓練・疑似煙体験・起震車等も体験できます。

【2】天王寺区内の備蓄倉庫の推進

- (1) 現在小学校・中学校に備蓄倉庫があり、天王寺区内で公園や広場での食糧・機材備蓄倉庫が少ないと思われます。備蓄倉庫を市営・府営住宅敷地内等に倉庫を設置し備蓄しては？
- (2) 真田山公園・五条公園・寺田町公園にも備蓄倉庫の設置
- (3) マンションや共同住宅に協力を促し、備蓄倉庫を設置
- (4) 備蓄は大規模・中規模・小規模に分け、出来るだけ多く設置出来る事が望ましい
- (5) 天王寺区役所で備蓄確認が出来ていない、民間（企業・学校関係・地域・マンション）に何がどこにどれだけ備蓄があるかを把握する必要がある

【3】被害想定徹底調査（区内の危険個所の再認識）

- (1) 倒壊・半壊による負傷（住居の耐震補強の推進）
- (2) 火災の消火想定（ガス管の損傷によるガス漏れ火災）
- (3) 倒壊による道路寸断・救助や消火活動の妨げになる可能性を把握
- (4) 送電が無くなった場合の自宅用医療機器等
- (5) 家具の固定・家具の転倒予防

テーマ3：天王寺区の福祉について

【1】サイレント・マジョリティの意見を区政に反映させ障害のある住民も住みよい天王寺区を目標に目指します。まずは現状報告。

- ### (1) 現状

天王寺区総人口 70,814 に対し、3,280 人が、障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている。

(総人口の約 4.67%) <24 区中 21 位>

(日本平均：5.7%)

公的サービス利用の一例

特別障がい者手当等を受けている天王寺区在住の障がい者：91名（3280人中・0.27%）

〃 平野区 〃 : 504 名 (14440 人中・0.34%)

障がいのある人が、十分に公的サービスを受けられていない可能性。

ニーズ調査、潜在的な利用者の把握が必要。

【2】天王寺区内で歩道の整備がされていない地域があり、車いすでの走行が困難な個所が多数あります。歩道のバリアフリー推進を促す。

- (1) その地理的状況を鑑みて、坂が多い。

↳車いす使用者・介助者・高齢者に負担。

歩道が狭いところがある。

↳事故につながる危険性。

公共施設にも段差が多い。

↳身体障がい者・高齢者に不親切。

観光資源のバリアフリー対応が中途半端。

↳四天王寺、天王寺公園など。

(2) 人権教育

天王寺区社会福祉協議会「ゆうあい」が区内小中学校に出向き、車いす体験授業をおこなっている。 → 内容の検討・提案を含めて、現在、調査中。

(3) 災害時の対応—福祉避難所—

高齢者や障がいのある人が避難する際に開設する避難所。現在、天王寺区内で3つの施設（たまつくり苑・きたやま苑・天森養護老人ホーム）が福祉避難所の協定を結んでいる。（高津学園・ゆうあい 現在協定交渉中）

天王寺区2.0（骨太）にもあるように、今後、協定締結施設を増やす必要

その他、障がい者雇用問題や生活支援等に対する意見をまとめ、提示していく予定です。

【3】独居・高齢者対策・障害者、見守りが必要ですがどの住宅にしているかが把握出来ない問題点があり、ヘルパーに尋ねても個人情報上の壁があり、どの様に対策していくかがこれからの、論点では？

(1) 独居高齢者・障害者見守りサポーター強化

ネットワーク推進委員・民生委員・生活支援員・区社協・ケアマネージャー・ヘルパー・見守りサポーターとの連携の強化・情報共有が必要

(2) 改善点

区役所（行政）のバックアップ体制

区役所担当者を明確にする。行政として情報収集・対応・担当者に連絡

休日・夜間の対応が必要

災害対策の活用

(3) サポーターの確保

公募・地域の口コミの輪・大学生・専門学校生・区内高校生

(4) 利用者の確保

行政の名簿を活用した調査

地域ネットワークを利用した調査

区広報紙による希望者募集

(5) 緊急連絡先・親族の調査

サポートの必要な方にアンケート

親族への緊急連絡先の調査

かかりつけ医・ケアマネージャー・ヘルパーへの連絡先

病気・薬の確認も必要